

中国日本商会では、2015年11月、代表団19名が広西チワン族自治区を訪問した。幹部会見、同自治区商務庁との意見交換、産業園区および試験区（東興国家重点開発開放試験区、欽州保税港区、南寧ハイテク産業開発区、中国・マレーシア欽州産業園区）を視察した。商務庁から受けた説明を基に、同自治区のビジネス環境を紹介すると次のとおりである。

概況

総人口は5,400万人、陸地面積はおおよそ24万平方キロメートルでベトナムと国境を接する。2015年のGRPは前年比8.1%増の1兆6,803億元となり、全国の2015年実質成長率6.9%を上回った。貿易総額は前年比15.0%増の3,190億元であり、そのうち辺境少額貿易額は1,060億元に上り、全国1の規模となった。2015年末までの日本からの投資企業数は189社で、累計投資総額は契約ベースで2億7,100万ドル、実行ベースで2億4,000万ドルとなった。主な進出分野としては、製造業、情報伝送業、コンピュータサービス・ソフトウェア業、ホテル飲食業、リースサービス業である。

特徴と位置付け

同自治区は25の通関拠点（うち一類拠点が19カ所、二類拠点が6カ所）で、2015年の北部湾港の貨物取扱量は約2億400万トン。ASEANの47カ所の港と海上連携を強化しているほか、南寧・シンガポール経済回廊の建設を積極的に推進しており、当該ルートはシンガポール・マレーシア・タイ・ラオス・ベトナムを結んでいる。また、隣に位置する広東省をはじめ、貴州省、重慶市、四川省まで一体となる高速鉄道・高速道路網の整備に取り組んでおり、同自治区が中国北西部地区と西南・中南地区、さらには中央アジアと東南アジアを結ぶ拠点となることを目指している。さらに、内陸に位置する中国西南・中南地区にとっては同自治区が海への窓口となることから、通関・検疫システムなどの分野で統一性を高め、地域の通関一体化を図るなど各省との協力ネットワークを構築中である。

こういった特徴を背景に、2014年3月、中国政府は同自治区を次の三つに位置付けた。①ASEANに向けた国際大通路、②西南・中南地区の開放・発展の新たな重要拠点、③「一帯一路」の有機的な連結における重要な窓口である。

東南アジアとの経済交流に力点を置いた試験区の設置

ASEANと隣接している地理的優位性を背景に、ベトナムをはじめとする東南アジアとの経済交流に力点を置いた試験区の開発が進んでいる。

東興国家重点開発開放試験区は2012年8月に国務院の承認を得て設立され、インフラ整備や企業誘致を積極的に実施している。総面積1,226平方キロの試験区に5つの機能区を重点的に配置しており、その一つである国際経貿区では「中国東興・ベトナムモンカイ国境経済合作区」の開発が進められている。同区は中国・ベトナム政府の合意に基づき、中国・ベトナムの国境河川の両岸にそれ

ぞれ10平方キロ前後の特別管理区を計画したもので、「二国一区、境内関外（国境内にあるが関税線の外にある）、自由貿易、保税運営」管理方式が実施され、「国境線の開放、自由貿易区と非自由貿易区の境界の管理、区内の自由、人と貨物の分離」を実現している。また、同区では現在、中国・ベトナム両国の中越北倫河二橋、道路網と幹線道路および税関連合検査などのインフラ整備が加速している。このほか、東興試験区では全国に先駆けて新たな政策を試行しており、ベトナムとの国境労務提携を強化し、国外の辺境住民の入国労働モデル事業を始動し、雇用が困難で人件費が高いという問題を解決している。今後モデル事業区域を「国境経済合作区」およびその付帯工業園区にまで拡大し、「広西国境労務合作モデル地区」の創設に努める。

欽州保税港区は2008年に国務院の承認を得て設立された中国西部沿海地域で唯一の保税港区であり、また西南地区沿海地域で唯一の完成車輸入税関でもある。当該地区は自動車の輸出入、越境電子商取引、大規模な商品貿易、倉庫物流、一般航空および革新的な金融サービスにとって利便性が非常に高い。現在、ASEAN諸国の主要な港湾の間でコンテナ航路が開通しており、「一帯一路」の有機的な連結における重要な窓口港、環北部湾の地域的国際海運物流ターミナルおよび中国（北部湾）自由貿易試験区の中心港区を目指している。

代表団としての印象 - 今後の発展に注目 -

今回の視察を通して、同自治区が中国の東南アジア交流の最前線基地に位置付けられ、物流インフラの整備、北部湾周辺等を中心とした試験区の開発が急速に進んでいることが理解できた。特に、前述のベトナムの労働力の取り込みを狙った「広西国境労務合作モデル地区」は、大きな発展の可能性を秘めていると思われる。中国西南・中南地区の開放・発展の重要な拠点として発展が期待される中、地理的優位性に基づく構想が形になりつつあるが、さらに国が積極的に推進する「一帯一路」政策の後押しを受けて、どのようなビジネスが構築されていくか注目される。

図：広西チワン族自治区地図と視察した産業園区および試験区の位置

